製 品 安 全 デ ー タ シ ー ト

JUNSEI

1, 化学物質等及び会社情報

会社名　　純正化学株式会社
本社住所　〒103-0023　　東京都中央区日本橋本町 4-4-16
電話番号　03-3270-5426　　FAX 番号　03-3270-5418
担当部門　生産本部　　担当者　菅野英奇
緊急連絡電話番号　03-3270-5426　　FAX 番号　03-3270-5418
作成日　　2001 年 11 月 8 日
整理番号　　73051
製品名　　(特級) メタクリル酸アリル　　Allyl methacrylate

2, 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別：単一製品
化学名：メタクリル酸アリル
化学式：C7H10O2
CAS　No：96-05-9
含有量：98%
化審法：2-1037
安衛法：公表

3, 危険有害性の要約

緊急時情報
目、気管支、皮膚に刺激
毒性。有害
◇吸入したとき：　呼吸器官の刺激
◇皮膚に触れたとき：　刺激。皮膚を通して吸収される。
◇目に入ったとき:　刺激
◇飲み込んだとき：　飲み込めば毒
◇慢性：データなし

4, 応急措置

◇眼に入った場合：先ず数分間、多量の水で洗い流す（できればコンタクトレンズをはずす）。医師に連れて行く。
◇皮膚に付着した場合：汚染された衣服を脱がせ、水と石けんで皮膚を洗浄。医師に連絡。
◇吸入した場合：新鮮な空気と安静。必要な場合には人工呼吸。医師に連絡。
◇飲み込んだ場合：口をすすぐ。医師に連絡。

5, 火災時の措置

消火方法
1. 周辺火災の場合、出切る限り速やかに容器を火災現場より遠ざける。移動不可能な場合は容器及び周囲に散水して冷却する。

2. 着火した場合は風下の人を退避させ火元への燃料源を断ち、風上より消火剤を使用して消火する。消火に当たっては保護具を着用する。
消火剤
1. 水スプレー、粉末消火薬剤、AFFF（水性膜泡消火薬剤）、泡消火薬剤、二酸化炭素。

6, 漏出時の措置
1. 換気。
2. 漏出物をふた付の容器に集め、残留物を砂または不活性吸収剤に吸収させて安全な場所に移す。
3. 特別個人用保護具：自給式呼吸器を含む完全保護衣。

7, 取扱い及び保管上の注意
取扱い
1. 蒸気、ミスト、ガスが、皮膚に触れたり、吸入することがないように、
局所排気したり、保護具を着用する。
2. 作業場を換気する。
3. 作業中は飲食、喫煙をしない。
4. 強酸化剤との接触に注意する。
保管
1. 火気厳禁。
2. 密栓して冷蔵庫に保管する。
3. 強酸化剤から離しておく。

8, 暴露防止及び保護措置
通気：換気装置を用いて、ミスト、ほこり、蒸気濃度を低く保つ。
暴露限界：規制値は設定されてない
設備対策
1. 局所排気装置
保護具
1. 有機ガス用防毒マスク。
2. 安全ゴーグル。
3. 保護手袋。
4. 不浸透性保護衣。

9, 物理的及び化学的性質
外観：無色透明液体
臭い：刺激臭
pH: データなし
蒸気圧：3.9mbar/20℃
粘度：1mPas/20℃
沸点：144℃
融点：-65℃
発火点：データなし
引火点：37℃
分解温度：データなし
溶解度：4g/L, 20℃
比重：0.938g/cm3

10, 安定性及び反応性

反応性と安定性:常温常圧で安定
避けるべき条件：混触不可物質、高温、光、点火源
混触不可物質：酸化剤、還元剤、酸、塩基、過酸化物
危険な分解生成物：一酸化炭素、二酸化炭素、
危険な重合反応：報告なし

11, 有害性情報

刺激性

ドレイズ試験：目、ウサギ、500mg/24hrs;マイルド
ドレイズ試験：皮膚、ウサギ、20mg/24hrs;モデレート

急性毒性：

LC50=5500mg/m3　吸入　マウス
LC50=1800mg/m3　吸入　ラット
LD50=57mg/kg　経口　マウス
LD50=70mg/kg　経口　ラット
LD50=500μL/kg　経皮　ウサギ

発がん性：

ACGIH, IARC, NIOSH, NTP, OSHA に記載なし

12, 環境影響情報

データなし

13, 廃棄上の注意

1.　都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物の処理業者に依頼する。

14, 輸送上の注意

1. 運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないよう積み込み、荷くずれの防止を確実におこなう。

国連分類：3.3 （高引火点引火性液体）
容器等級：III
国連番号：1992　（その他の高引火点引火性液体、毒性のもの）

15, 適用法令

消防法：危険物第４類第２石油類非水溶性危険等級III

16, その他の情報

参考文献

① 原料メーカーMSDS

コメント

記載内容は当社の最善の調査に基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては必ずしも安全性を十分に保証するものではありません。
全ての化学製品には未知の有害性が有り得るため、取扱いには細心の注意が必要です。ご使用者各位の責

任において、安全な使用条件を設定くださるようお願いします。また、特別な取扱いをする場合には、新たに用途，用法に適した安全対策を実施の上でご使用下さい。